



発行
社会福祉法人正和会

発行責任者 菅原 哲
編集責任者 伊藤 大士



7月3日(水)にめでたく百歳を迎えられた、たんちよう淡路チヨ様の記念式典を開催致しました。

式典にはご家族も同席されました。思い返してみると、コロナの影響もあって、ご家族も集まっていたの盛大なイベントは六年ぶりの事です。



鈴木市長から花束と賞状が手渡されると、お祝いに集まった利用者や職員からも、大きな拍手が送られました。祝福の中、チヨ様の表情も、百歳を迎えた喜びを噛み締めているように見えました。

これからも、いっそう元気にお過ごしください。本当におめでとうございませう。

避難訓練



厨房からの出火を想定しての訓練です。火災報知器を押すところから全ては始まります。

放送をかけて、全館内に避難指示を出します。全体の流れを把握するその姿はまさに、揮着者のポジションと言えるでしょう！

利用者の避難誘導を行う様子。避難誘導が終わった後は、発電機や消火器の手順や操作方法を教わりました。みんな、真剣な様子で取り組んでおりました！



ふくろう職員紹介

山本 優

介護主任



吉田 真一

生活相談員チーフ



部活とスポーツ両立の日々

デイサービスセンターふくろうの山本です。私には、中学二年と小学四年になる二人の息子がいます。中学生の息子はスポ少から続けているバスケット部に入学しており、小学生の息子も6月からバスケットのスポ少に入りました。中学校の部活では中総体も終わりを迎え、三年生先輩方から息子たちへバトンが渡され世代交代となった為、練習や試合で日々忙しい毎日を送っています。一方、小学生の息子もスポ少に入ったばかりとはいえ、日々の練習・土日祝は試合と、こちらもかなりのハードスケジュールとなっています。

最近一番の悩みは、土日祝の試合が重なってしまう事です。夫婦で話し合い、担当を決めて試合について行ったり、どうしても無理な時は親戚の力も借り両立の日々を過ごしています。大変ではありますが、息子たちが少しでも活躍ができるよう、支えつつ応援していきたいです。

日本における介護の未来

日本における介護の未来は、高齢化が進む中で大きな課題となっています。人口の高齢化に伴い、介護を必要とする高齢者が増加する一方で、介護職員の不足も深刻化しています。この問題に対応するため、技術導入が期待されています。

例えば、介護ロボットやAIを活用した見守りシステムが、介護の現場で普及しつつあります。これにより、介護職員の負担軽減や高齢者の自立支援が可能となるでしょう。

また、地域社会全体で高齢者を支える仕組みも重要です。地域包括ケアシステムを通じて、医療と介護が連携し、地域住民が協力して支援する体制が整えられています。

さらに介護の魅力を向上させるための取組も進められており、給料や労働環境の改善、キャリアアップの機会の提供が求められています。

このような多角的なアプローチにより、日本の介護の未来は、技術革新と地域の協力によって持続可能なものになるでしょう。

質の高い介護を提供するためには、社会全体の理解と支援が不可欠です。



買い物ツアー



編集後記

7月で大きく話題になったニュースと言えば、新紙幣の発行でしょうか。

二十年ぶりの新札発行について、SNSでも、デザイン面に違和感を感じる声が多いようです。

私自身もまだ実際にこの目で見たことはありません。事務員として、お金の取り扱う仕事ですので、お釣りの数え間違い・渡し間違いには十分気を付けなければなりませんと感じた次第です。

7月中頃から、一週間を通して、買い物ツアーを行いました。

一人暮らしでなかなか買い物へいけない方も多いため、今回の企画は利用者様にとっても好評でした。

右に左に、目移りしながら思い思いのショッピングを楽しまれておりました！